

平成27年度 学校自己評価システムシート (県立川口工業高等学校(定時制))

目指す学校像	工業技術の基礎・基本を学び、ものづくりの心を育てる楽しく明るい学校
--------	-----------------------------------

重点目標	1 授業内容や教材等を工夫し、基礎学力の充実を図る 2 個々に応じた勤労意識の育成とキャリア教育を充実させる 3 規律ある態度を育成する 4 地域に根ざした開かれた学校づくりを推進する
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	2名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	3名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 2 9 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	① 普通教科の学力が不足し、授業への参加意欲も高くない。基礎学力を向上させ、主体的な学びの態度を育成することが課題である。 ② 専門教科ではものづくりの楽しさを実感している生徒が少なくない。将来、ものづくりに携わろうとする生徒を増やすことが課題である。	基礎学力を向上させ、専門教育のさらなる授業改善を行う	① 1年次の普通教科の指導では学習支援員を活用して個別指導を展開し、基礎学力を向上させる。 ② 専門教科ではグループ学習の展開などによりものづくりの楽しさを味わわせ、次への意欲につなげる。	① 授業への参加意欲が高まった生徒の割合(昨年度生徒アンケート58.1%) ② ものづくりに関わる仕事に就きたい生徒の割合(昨年度生徒アンケート56.2%)	実質的な少人数授業の中で生徒は落ち着いている。 ① 授業への参加意欲は57.8%(昨年度比-0.3p)ながら、「そう思う」と答えた生徒は24.1%(昨年度比+7p)。 ② ものづくりに関わる仕事に就きたい生徒の割合は54.2%(昨年度比-2p)ながら、「そう思う」と答えた生徒は27.7%(昨年度比+2p)。	B
2	① 明確な目的意識がないまま入学してくる生徒も多く、毎年1割以上の生徒が中途退学となる。進路意識を高めて中途退学者を減少させることが課題である。 ② 平成26年度卒業生は40.5%が進路未定のまま卒業した。在学中に進路希望を明確にさせ、進路確定者を増加させることが課題である。	「キャリア教育全体計画」を用いた進路指導を行う	① 就職支援アドバイザー活用やハローワークとの連携により個別指導を行い、進路意識を向上させる。 ② 「計画」を教員全体で共有化するとともに、教員全体で進路指導を行う。	① 進路希望未確定者の割合(昨年度生徒アンケート42%)及び中途退学者の割合(昨年度11%) ② 4年次生徒の内定者の割合(昨年度59.5%)	各担任が進路指導に前向きにはなっているが、中途退学者は前年度並みとなった。 ① 進路希望未確定者は36.1%(昨年度比-5.9p)。中途退学者の割合は10%(昨年度比-1p) ② 4年次生内定者の割合は57.1%(昨年度比-2.4p)。	B
3	① 平成26年度は欠席30日以上が18名おり、うち7名が中途退学した。欠席の多い生徒には登校支援を行い、進級・卒業させることが課題である。 ② 生徒指導上の大きな問題は減少しているが、生徒一人一人の規範意識を醸成し、問題行動を減少させることが課題である。	自律・自立の気持ちや態度を育成し、規範意識を向上させる	① 欠席の多い生徒について情報共有を行い、校内外の組織・機関と連携しながら支援を行う。 ② HRや部活動での指導を通して生徒との信頼関係を構築しながら、校内外のルール遵守を毅然と指導する。	① 欠席30日以上の子どもの割合(昨年度14.1%) ② 学校のルールに従うという規範意識を持った生徒の割合(昨年度生徒アンケート80.9%)	不登校生徒の家庭支援のために支援会議に取り組んだ。 ① 欠席30日以上の子どもの割合は23名22.3%(昨年度比+8.2p)。うち不登校2名の支援のため市・支援機関・中学校と連携し、支援会議を7回実施。 ② ルールに従う規範意識を持った生徒は86.7%(昨年度比+5.8p)	A
4	① 子どもに関わろうとしない保護者や定時制に関心を持たない地域の方も多し、保護者や地域に対し、さらに情報を発信することが課題である。 ② 志願者が毎年減少している。本校の特色を広報し、志願者を増やすことが課題である。	本校の情報を発信し、本校に対する保護者や地域の理解を高める	① 本校教育活動を周知するため学校公開や学校ホームページの随時更新を行う。 ② 地元中学校を含む諸機関と連携し、本校教育活動を周知する。	① 学校公開への参加者数(昨年度0名)及びホームページ更新数(昨年度201回) ② 地元諸機関への訪問回数(今年度新規)	保護者への情報発信は工夫が不足したが、他への情報発信は改善した。 ① 学校公開参加者数3名。HP更新回数は117回ながら、「入学希望者のためのQ&A」「校内風景」を掲載するなど刷新。 ② 地元諸機関への訪問回数は37回(小中23回、市教委3回、特支5回、支援機関7回)。	B

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成28年3月11日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業は丁寧に取り組んでもらっている。 ・求人票はどれくらい来るのか。いつ頃から進路指導ははじめているのか。 ・進学者はいるのか。どんなところに進学しているのか。 ・落ち着いた学校生活が送れていると思う。 ・なかなか学校に来る機会がないので、次はぜひ授業の様子も見たい。 	